

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立 梅島第二小学校 校長 竹花 正徳

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視して、生涯を通して知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。さらに、基礎・基本を土台とあたたかな学習集団を醸成させ、学んだことを必要な時に使える児童の育成を図る。

○ゆたかな子 ○考える子 ○つよい子

公立学校としての基盤に立ち、教育目標の具現化を図るために、私たち一人一人が教育公務員としての自覚をもち、教育目標を自分事として明確にとらえ、日々の教育活動を進めていく。

2 現状の学校図書館の課題

- ① 図書館が狭く、2部屋に分かれているため、使いづらい。
- ② 図書館の割り当て時間が決まっているため、使いたいときに使えないことがある。
- ③ 休み時間の図書室の利用者が少ない。
- ④ 本好きの児童は多いが、読みの深まりや広がりには欠ける。
- ⑤ 学校図書館を学習に利用しようという意識が教員に薄い。

3 今年度の学校図書館の目標

- ① 図書室の利用者を増加させる。
- ② 自分で読みたい本を探し、一人読みできる児童の育成を図る。
- ③ 知りたいことに対し、適応する資料を探し、情報を見つけることができる児童の育成を図る。
- ④ 多様な情報に気づき、活用できる学校図書館のあり方を探る。

4 今年度の重点取組

- ① 国語科を中心に読書活動を工夫し、様々な分野の本を読むようにさせる。
- ② 学校図書館で学習が円滑にできるよう、2～8類の図書館資料の整備に努める。
- ③ 図書委員会の児童を中心に、読書活動に積極的に取り組むような活動に取り組む。
- ④ 図書担当や学校図書館支援員から各教科で学校図書館を活用できる単元を提案することで、学校図書館を学習に活用できるようにしていく。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	新しい教科書（光村図書）の内容に準ずる。
社会	④ごみのゆくえ ⑤新聞の情報 ⑥歴史
理科	④月や星の見え方 ⑤台風と天気の変化
図工	①おはなしだいすき ③ことばから思いうかべて

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

総合

④職業調べ ⑤わたしたちの安全な街 ⑥夢に向かって

実践の評価

- ・単元により必要な図書を担任が図書支援員に依頼をし、支援員が用意した図書を授業で活用することができた。
- ・調べ学習で図書室を活用することができた。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

- ① 読書時間の確保（低学年週1回、中学年月2回、高学年月1回、朝読書）
- ② 図書委員が当番を行うことで、毎日の中・昼休みに開館する。

(2) 主な行事の取り組み

- ① 読書旬間年2回
- ② おはなし給食

(4) 図書委員会などの取り組み

- ① 読書カード
- ② 読み聞かせ
- ③ 読書パズル
- ④ おすすめの本のポスター
- ⑤ 特設コーナーの設置
- ⑥ 図書委員会集会
- ⑦ 毎日のカウンター業務

(4) 環境整備の取り組み

- ① 請求記号を3桁に統一し、分類の理解を深める。
- ② 2～8類の図書の追加購入
- ③ 新しい教科書に適応した新規図書の購入、設置
- ④ 書架サインの追加（9類の50音表示）
- ⑤ 複本の別置

(5) 司書・外部との連携

- ① 展示や掲示を工夫し、図書館の美化に心がける。
- ② 授業担当者との共通理解を図る機会を確保し、資料の準備をより充実させる。
- ③ 請求記号3桁への理解を広める掲示物、調べる学習コンクール等を周知する掲示物の作成
- ④ 学校図書館スーパーバイザーや学校巡回司書と連携し、教員向けの研修や授業を行う。

実践の評価

- ・読書旬間では、図書委員会による活動（読み聞かせ、読書カード、クイズなど）を行うことにより、普段よりも図書室の利用が増え、貸出冊数が2倍以上になった。
- ・環境整備を進め、教科書に載っている本の棚を学年ごとに整備した。
- ・職員室前の掲示板に新着本、おすすめの本、調べる学習コンクール等を周知する掲示物を掲示した。
- ・学校図書館スーパーバイザーに教員向けの研修を2回、特別支援学級に向けて読書活動の授業を1回実施した。

7 学校図書館利活用に関する成果目標 達成基準 達成状況

- | 7 | 学校図書館利活用に関する成果目標 | 達成基準 | 達成状況 |
|---|----------------------------------|-----------------|--------|
| ① | 図書館のしくみを理解し、様々な分野の本や資料を読むようにさせる。 | 児童の年間平均貸出冊数：30冊 | 78, 6% |

②	自ら問いをもち、ICT と本、新聞など、複数の情報を活用して学習させる。	ICT と図書を併用した調べ学習を実施した回数：年10回	年10回
③	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合：70%	90%

8 学校図書館全体に関する自己評価

- ・ 休み時間は外遊びやクロームブックの活用のため、休み時間の図書室の利用率が低い。そのため読書旬間での活動や中休み週一回支援員が読み聞かせをする、図書委員によるおすすめの本のコーナーの設置などに取り組んできた。来年度も引き続き取り組んでいく。
- ・ 図書委員による活動（毎日のカウンター業務、おすすめの本の紹介新聞、読み聞かせなど）を充実させることができた。
- ・ 読書旬間以外の読書記録をしていないので、読書記録の仕方を考え、実施していきたい。
- ・ 学校図書館スーパーバイザーによる教員向けの研修、提案授業を実施することができた。次年度も継続していく。